

入選 高学年の部 私がお姉ちゃんになった日

千葉県
八千代市立萱田小学校 五年

柴田 真帆

二〇〇五年二月八日、この日は妹の誕生予定日でした。ずっと妹や弟がほしかった私は、その日がまちどおしくてしかたがありませんでした。お母さんの病院通いで、少しさみしくなった時もありましたが、生まれてくる赤ちゃんのためなら、どんなことでもがまんすることができました。

一月二日の夜、お母さんの体調が急変、予定日までまだ一カ月もあるのに、そのころ幼稚園生だった私は、早く赤ちゃんに会うことができると、うれしく思いました。

でも、病院に着くと、先生や看護師さん達は、とても慌ただしく、緊張感のある様子に何だか不安になりました。先生の「最悪の場合、母体を優先します。」の言葉。母体を優先？意味がわかりませんが、最悪は理解できました。やっと私がお姉ちゃんになれるというのに、とても心配でした。

心ぞうがはりさけそうになりながら部屋で待つていると、コンコン、ドアがノックされました。私は直感で赤ちゃんだと思い、飛んでいきました。そこにいたのは、透明の箱に入った小さな妹でした。指もマツチぼうのように細く、想像していた赤ちゃんとは、全くちがいました。こんな小さな体の中に、私と同じ命が宿っていることを、不思議に思いました。その時少しだけ、足にふれることができず、とても温かく、世界で一番幸せなものにふれた気が

がしました。心ぞうがビクツ、小さく動く妹は、とてもかわいくて、心配も一気に飛んでいきました。

現在、医師不足や病院の設備、受け入れ拒否などの問題から、生まれて来るはずの赤ちゃん、時にはお母さんまで命をおとす、そんなニュースをよく耳にします。その度にとっても悲しい気持ちになり、また今ある命の大切さを強く感じます。

後から妹に、少し障害があることがわかりましたが、あんなに小さく生まれた妹は、食べる事が大好きで、私が抱いているのも大変なくらい大きく成長し、今は、私がお姉になったころと同じ、元気な幼稚園生です。たくさんの先生、看護師さんのおかげで助けられた命だと思えます。先生、看護師さん本当にどうもありがとう。

妹の帆乃佳へ、いつもけんかしてばかりだけど、それで友達や相手の気持ちをよく考えることの大切さを学んだよ。障害を持った帆乃佳だけど、いつも笑顔でがんばっている姿を見て、自分の甘えや弱さを知り、がんばらなくてはと思うよ。手も足も何も不自由でない私は、今まであたり前に思っていたことが、とても幸せなことだと知ることができたよ。そうして、私は帆乃佳から、たくさんのことを教えてもらっているんだよ。いつもありがとう。そして、私の妹に生まれて来てくれて本当にありがとう。